

## 熊本地震建物被災調査速報 (Part-5 内壁の損傷)

5月30日から6月2日にかけて実施した熊本地震における戸建住宅建物被災調査の速報結果について、臨時増刊としてご紹介しています。今回は、内壁の損傷についてです。

### 【大壁と真壁】

多くの建物で用いられている「石膏ボード下地クロス貼り」の大壁では、構造躯体の変形に伴いボード接合部にズレが生じ、接合部沿いにクロスが剥がれが見られました(写真-1)。工事振動での変形量はごく小さいものの、これらは工事振動でも想定される損傷形態です。真壁では写真-2のように、隅角部において下地石膏ボードの浮きや隙間、圧壊が見られました。ユニットバスはパネル接合部に隙間が生じ(写真-3)、変形量の大きい場合の化粧ボードは脱落していました(写真-4)。但し、工事振動レベルでは変形量は小さく、また、変形は残留しないので、これらの損傷は生じません。

### 【タイル仕上げ】

振動被害の代表例のように扱われるタイルの損傷ですが、他の損傷に比べれば発生は少なかったです。主に見られる損傷は写真-5~7のように、構造躯体の変形による入り隅部のタイルの剥落や亀裂、目地の剥落及び躯体の残留変形に伴う目地の隙間でした。タイル下地は構造用合板などの場合が多く、壁面同士の変位・変形により面部よりも入り隅部に損傷が生じています。写真-6は鉄骨造ですが、柱型と変形が生じ易い壁面との接合部に損傷が生じています。写真-8のような下地がブロックや高基礎の浴室腰壁のタイルには、下地部分には変形が生じ難いので損傷はなく(第111号)、タイルの損傷は木造下地の腰壁より上部のみに生じています(写真-7)。床タイルも無傷です。これは工事振動でも同様に考えられます。



写真-1 大壁(PB+クロス)の損傷



写真-2 真壁の損傷(下地ボードの浮き)



写真-3 ユニットバスパネル隙間



写真-4 大壁(化粧ボード)の脱落



写真-5 入り隅部タイルの剥落



写真-6 入り隅部の亀裂と目地破損



写真-7 腰回りの亀裂(下部損傷無し)



写真-8 浴室回り高基礎(ブロック)

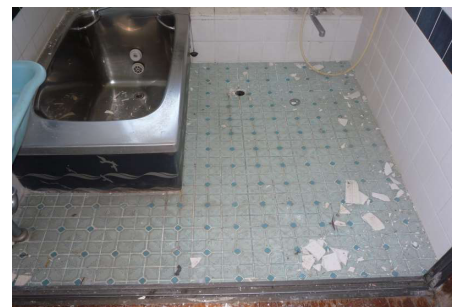


写真-9 床タイル状況(損傷無し)